

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470901248
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館
訪問調査日	平成30年3月7日
評価確定日	平成30年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901248	事業の開始年月日	平成17年3月17日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館			
所在地	(223-0052) 横浜市港北区新羽町3954-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年1月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中のグループホームで、入居者は毎日の散歩等を通じ四季折々の花や木々を見ながら季節を体感されています。食事は、入居者と一緒に地域のスーパーに買い物に行き、入居者に下ごしらえや調理、盛り付け、食器洗いなど、主体的に取り組んでいただいています。その他、掃除、洗濯物干しなどご自分でできることは、職員が関わりながら行っていただいています。法人主催のボランティアによる行事への参加のほか、ホーム内で行われる週2回の音楽療法、入居者の希望を取り入れた外食会、地域の祭りなどの行事への参加など、楽しみの多い生活環境が整備されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年3月7日	評価機関 評価決定日	平成30年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人寛栄会の経営です。同法人は、新横浜介護老人保健施設カメリアを中心に、診療所と居宅介護支援センターを併設し、近くに2つのグループホームを運営しており、その1つがここ「高齢者グループホーム カメリア壱番館」です。カメリアのサービスとして「尊敬」「慈愛」「親切」を掲げ、心のケアを重視する姿勢を大切に日々ケアに取り組んでいます。場所は、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩15分の自然に囲まれた静かでどかな環境の中にあります。建物は2階建てで、週2回の音楽療法などを行う南向きのリビングには和室の小上がりがあるなど、入居者がくつろぎの時間を過ごせます。周辺には、散歩などで四季折々の花や木々が楽しめる蓮華寺など、多くのお寺や神社があり季節を体感することができます。

●事業所の理念として「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」を掲げ、玄関に掲示しています。入居者の心情に寄り添うサービスの提供、家族への情報提供を徹底する取り組み、地域行事に参加し地域の方との交流を行っています。食事はホームの台所で作っており、調理や食器洗いは入居者と職員が共に進めています。法人経営の介護保険施設カメリアの協力とサポート体制が整い、安心できるケアサービスが提供されています。

●事業所では、毎月、入居者の様子や行事予定などを記載した「カメリア壱番館便り」を送付し、変化も含め細かく様子を伝えることで家族との信頼に繋がっています。法人では、職員の教育と研修にも注力しており、定期的に研修や勉強会を開催し、質の高いケアを実現すべく取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の三本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。	理念に基づき、年度ごとに目標を掲げています。理念に沿った具体的な行動として、外出の支援、食事の手伝いや洗濯物の片付け、地域の祭りなどの行事への参加など、入居者が居心地よく楽しい生活の場になるよう全職員が支援しています。理念は職員だけでなく家族の来訪時にも目につくよう、玄関に掲示しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域のスーパーマーケットで購入している。外食会では近隣のレストランを利用している。また、法人本部や小学校にて開催される地域の行事などに積極的に参加している。	北新羽町内会に加入し、小学校の運動会や杉山神社のお祭りなど、地域の行事に参加し交流しています。日々の買い物や外食会では近くの店を利用し、法人と合同行事の椿まつりや事業所行事などには、地域の方にも参加いただいています。毎年中学生の福祉体験の受け入れを行っている他、地域の保育園児とも交流しています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っているほか、地域の保育園の園児との交流会を定期的に行っている。近隣の神社への初詣や、地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの中の様子を写真などを使ってわかりやすく報告し、会議の中で出された意見、アドバイスを入居者へのサービスに反映できるように努めている。また他法人のグループホームの管理者とは相互に運営推進会議に参加して、意見交換をおこなっている。	運営推進会議は、「カメラ式番館」と合同で3ヶ月に1回、法人経営の老健会議室で開催しています。2町内会長・地域包括支援センター職員・民生委員・医師・看護師・法人本部長・入居者家族・管理者等が参加します。入居者の日頃の様子をスライドでわかりやすく説明し、意見交換を行っています。参加者の意見・提案はサービスの向上に活かしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故発生時の報告などで市に状況を伝えているほか、生活保護や障がい者手帳、介護保険更新の手続きなどで区の担当者と連携している。市や区からの連絡は法人本部の担当者を経由して、回覧している。市の集団指導講習には法人本部事務局の代表が参加している。	区高齢・障害支援課を中心に、運営推進会議議事録を送付するなど行政と連絡を密に取り、アンケートや問い合わせなどにも対応しています。「感染症」などの情報提供や研修の案内があり、情報交換を行うと共に研修会などに参加しています。生活保護受給者の受け入れを行っており、区の生活保護担当者とも連絡を密にしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し身体拘束の定義を再確認している。職員ミーティングにおいても身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員の意識統一を図っている。同法人内ではセンサーマットなどを含む一切の身体拘束をおこなっていない。	法人内に身体拘束防止委員会があり、年2回「身体拘束・虐待について」の研修を実施しています。法人本部の身体拘束に関するアンケートの実施や、日常業務の中で身体拘束ボーダーラインについて常に話し合っています。門扉と玄関は安全確保のため施錠していますが、各フロア出入り口の施錠は行わず、自由に行き来が出来るようにしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会へ参加し再確認できるようにしている。虐待に関するアンケートを定期的実施しており、自己確認も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。実際に制度の利用が必要な入居者には、関係者、行政などに連絡し、活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を掲示している。家族へは毎月施設での様子を記した手紙を送っているほか、受診報告は必ず電話連絡するなどして、施設と家族の連絡を密にしており、話しやすい環境を整えている。	入口に苦情連絡先を掲示している他、意見箱も設置しています。家族に毎月、行事予定や日頃の様子を記載した「カメラ壺番館便り」を送付しています。法人全体での行事の「カメラ椿祭」や花火大会などのイベントの時に参加家族から意見や要望を聞き、家族の声を職員間で共有しています。意見・要望については検討した後に運営に反映させています	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを開催し、職員の意見が表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、管理者は積極的に職員に意見を聞くなどして、職員が自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。	毎月の職員会議で、運営や業務について話し合い改善に繋げています。申し送りや連絡ノートを活用したり、管理者と職員は日頃から話せる関係が構築されており、日常の業務の中でも意見や提案の聞き取りを行っています。月2回の法人内の代表者会議で情報交換を行うなど、常時相談できる体制が構築され、働きやすい職場環境になっています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導ができるような組織づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行っている。同法人の職員が近隣の他法人のグループホームの運営推進会議に参加し、交流の場となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持ち、本人、家族ともに納得し、安心して入居できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や見学の際、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。入居直後は本人の様子を電話で伝えるなど、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を入居判定会議において他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じて行政などのサービス利用に結びつけることも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できる事はやっていたいでいる。立ち仕事に困難な方には座って行える工夫も行っている。職員と一緒にできる方には付き添うなどし、できる限り自立した生活の支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を報告するなどし、外出や外泊を勧めるようにしている。その際の様子もよく伺い、職員、家族間で情報を共有し、本人と共に支える関係作りを実践している。毎月1回、日々の生活の様子を「壱番館だより」として文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、入居者の馴染みの方の面会が可能であることを伝え、家族を通して馴染みの方に面会していただくよう勧めている。その際、個人情報の保護には配慮をおこなっている。	友人・知人の方との面会については、家族の了解を取り積極的に支援しています。入居前に馴染みの人や場所の情報を家族から聞き、状況の把握に努めています。家族の来訪は月1~2回あり、家族の協力でお食やお墓参りなどに出かけている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を配慮して食事席などを決めたり、時には席替えを行うなどしている。レクリエーション等では入居者同士がコミュニケーションを上手くとれるように職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時には、今後も相談に応じる旨を必ず伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で入居者の希望、要望を把握している。具体的な事柄は直接本人の希望を伺うこともある。意思表示が困難な方には生活の様子を注意深く観察し、本人の意向を把握するよう努めている。	入居時に家族から、これまでの生活歴と思いや希望をアセスメントシートで提供して頂いています。入居後、入居者の日々の様子・表情・仕草などを「一日の様子シート」に個人情報として記入します。申し送りノートで全職員が情報を共有し、入居者の意向の把握に努め、思いが実現できるよう取り組んでいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調の変化を見逃さないように観察している。有する能力を把握し、維持できるようにケアプランに記載し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。	入居時は暫定のケアプランで1カ月程度様子を見ます。入居者ごとの日々の様子・状態の変化などを「一日の様子シート」で確認します。全員参加のカンファレンスには看護師も出席し、6カ月に1回介護計画の見直しを基本としていますが、状態の変化に応じて都度見直しをします。介護計画は計画作成担当者が作成します。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事摂取量などの記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの変化に応じて同法人内の他の専門職とも連携を取り対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い、対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人内での行事に参加するほか、買い物、外食、外部医療機関の受診等で地域に出ることで、地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的に受診の支援をしている。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また、同法人内の診療所とは医療連携を図っている。	入居時にかかりつけ医の説明をし、入居者・家族の意向を聞いています。協力医療機関である法人経営の「カメリア診療所」から、入居者に対して月1回の訪問診療があります。看護師も週1回の巡回があり、定期的な健康管理も行われ、入居者・家族の安心に繋がっています。リハビリも含めて法人では、十分なサポート体制を取っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を把握している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供書を病院に提出し、家族の同意を得て、医師からの病状説明等には同席するようにしている。退院前には病院関係者に相談し、退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、必要に応じて話し合いを行っている。同法人の介護老人保健施設では終末期支援も行っており、家族と話し合いの上、退居後に介護老人保健施設を利用した例がある。	入居時、重度化した場合や終末期の対応について、事業所が「出来る事・出来ない事」を説明しています。重度化した場合は、協力医療機関「カメラア診療所」と連携し、出来るだけ長く事業所での生活が送れるよう支援しています。重度化した場合は家族・看護師・事業所で話し合い、法人経営の老健への移行も含めて方針を決めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を申し送っている。グループホーム独自のマニュアルも作成し、勉強会も開催している。職員は年1回、消防署の指導による救急救命講習に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防署の指導のもと、緊急時の通報、初期消火、避難誘導の訓練を行っている。この防災訓練には地域の方にも参加していただいている。	年2回、日中・夜間想定で実践に近い防災訓練を行っています。港北消防署新羽出張所の立会いで、指導を受け訓練しています。訓練には、町内会長・自衛消防団などの地域の方や法人本部の防災担当も参加し、通報・消火・避難誘導訓練などを行っています。備蓄に関しては、法人本部で3日分の備蓄を管理しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで申し送りを行っているため、入居者に個人情報がかえれないような配慮をしている。更衣、入浴、排泄などにも、ドアを閉めたり、スクリーンを使用するなど十分気を配っている。同法人内の接遇委員会に職員を配置し、接遇チェックも定期的に行っている。	法人内には接遇委員会があり老番館職員も委員として参加しており、職員の指導にあたっています。事業所でも接遇チェックを定期的に行います。名前は「名字(姓)」に「さん」付けで呼び、利用者の自尊心に配慮し礼儀正しい姿勢で接しています。トイレの声掛けや職員間の連絡などに細心の注意を払い、入浴・排泄にもスクリーンなどを利用してプライバシーに配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるように配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい、季節に合った服装の支援を心がけている。希望があれば入居者と一緒に衣類を買いに行くこともある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、洗い物など、食べ物の話をしながら、出来る事は入居者がおこない、食事への関心を高めている。包丁などの刃物の使用についても、入居者の能力を把握した上で積極的に取り入れている。	食事はホームの台所で作っており、調理や食器洗いは入居者と職員が共に行っています。法人本部の管理栄養士が週単位でメニューを作成し、食材は近隣のスーパーに入居者と買い出しに行っています。調理や盛り付け・配膳・下膳・食器洗いは入居者が職員が朋に行っています。2~3ヶ月に1回、外食の機会を設け、回転ずしなどにも出かけています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスを配慮している。食事摂取状況は食事チェック表を使用し、個別に把握している。水分量は水分摂取量チェック表に記録している。食事、水分量には注意をはらい、不足気味の方には個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には、排泄パターンの把握に努めて声かけや介助を行っている。日中、夜間とも排泄はトイレを使用していただく事を目標としている。	昼夜を問わず入居者個々の排泄パターンの把握に努めています。トイレでの自立排泄を目標とし、定時の声かけと入居者のタイミングを見計らったトイレ誘導で支援しています。夜間は定期的に巡回し、睡眠を重視しながら適切な時間にトイレ誘導するなど、個別対応を心がけています。便秘の予防として、水分・乳製品の摂取の他、散歩など、適度な運動を行っています	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らないように、朝食前に牛乳を提供したり、水分量を増やすなどの工夫をしている。個別で食物繊維の補助食品の提供もおこなっている。毎日の体操や散歩などの運動も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて毎日午後から入浴を可能にしている。入浴したい時間帯や曜日は希望を伺って対応している。	入浴は週2～3回、13時以降からを基本に支援しています。入浴を楽しんでいただけるように、季節に応じたゆず湯・菖蒲湯なども行っています。また、希望者には同性介助での対応も行っています。入居者の意向に合わせて、清拭・足浴などの個別対応や入浴したい曜日・時間帯についても希望に沿って対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中も臥床時間を設けている。その日の状態によって夜間の睡眠に差しさわりの出ない程度に昼寝を勧めるなど、体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルに綴じ、職員が閲覧できるようにしている。処方に変更があった場合、職員全員に申し送るとともに、体調などに変化がないか観察し、医師、看護師につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用し、役割を持って生活出来るよう支援している。また外出や趣味活動の支援を行い、楽しみのある生活を実践している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望には随時対応している。外食会では、行き先を入居者に選択していただいている。	四季折々の自然を楽しめる蓮華寺が近くにあり、天候や入居者の体調を考慮しながら散歩に出かけ、体力低下防止にも配慮しています。2～3ヶ月に1回の外食会は、入居者に先方の希望を確認して出かけています。また、入居者と一緒に、食材の買い出しのため地域のスーパーに外出したり、地域イベントの運動会や夏祭りにも参加しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預り、本人が衣類、日用品の購入を希望した時に使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙を出す際には、切手や葉書等の購入や投函の支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に十分配慮し、落ち着いて生活できる環境づくりを心がけている。	南向きのリビングの窓から、四季折々の花や木々が楽しめます。リビングの一角に小上りの掘りごたつが設けられ、落ち着いて生活できる環境になっています。共有空間は空調・換気などに注意し、定時の掃除で清潔な環境が維持されています。壁には、入居者のイベント時の写真が貼られています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり、日光浴をするスペースとなっている。またソファや窓辺でそれぞれ自由に過ごすこともできる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や日用品など馴染みの物、使い慣れた物を持ち込んでいただいている。昔の趣味の用具を部屋に置いて大事にされている方もいる。	各居室にはエアコン・クローゼットが完備されています。入居時の生活環境の変化から入居者が不安や混乱を招くことのないように、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただくように伝えています。テレビ・机などと共に家族の写真を飾る方もおり、入居者が安心して居心地良く過ごせるように配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い、安全に配慮し、自立した生活が送れるように常に考えている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラリア壱番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	2F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の三本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域のスーパーマーケットで購入している。外食会では近隣のレストランを利用している。また、法人本部や小学校にて開催される地域の行事などに積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っているほか、地域の保育園の園児との交流会を定期的に行っている。近隣の神社への初詣や、地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの中の様子を写真などを使ってわかりやすく報告し、会議の中で出された意見、アドバイスを入居者へのサービスに反映できるように努めている。また他法人のグループホームの管理者とは相互に運営推進会議に参加して、意見交換をおこなっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故発生時の報告などで市に状況を伝えているほか、生活保護や障がい者手帳、介護保険更新の手続きなどで区の担当者と連携している。市や区からの連絡は法人本部の担当者を経由して、回覧している。市の集団指導講習には法人本部事務局の代表が参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会へ参加し身体拘束の定義を再確認している。職員ミーティングにおいても身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員の意識統一を図っている。同法人内ではセンサーマットなどを含む一切の身体拘束をおこなっていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会へ参加し再確認できるようにしている。虐待に関するアンケートを定期的実施しており、自己確認も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。実際に制度の利用が必要な入居者には、関係者、行政などに連絡し、活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を掲示している。家族へは毎月施設での様子を記した手紙を送っているほか、受診報告は必ず電話連絡するなどして、施設と家族の連絡を密にしており、話しやすい環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを開催し、職員の意見が表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、管理者は積極的に職員に意見を聞くなどして、職員が自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導ができるような組織づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行っている。同法人の職員が近隣の他法人のグループホームの運営推進会議に参加し、交流の場となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持ち、本人、家族ともに納得し、安心して入居できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や見学の際、家族の不安などを伺うとともに、話しやすい関係作りに努めている。入居直後は本人の様子を電話で伝えるなど、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を入居判定会議において他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じて行政などのサービス利用に結びつけることも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できる事はやっていたいでいる。立ち仕事に困難な方には座って行える工夫も行っている。職員と一緒にできる方には付き添うなどし、できる限り自立した生活の支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を報告するなどし、外出や外泊を勧めるようにしている。その際の様子もよく伺い、職員、家族間で情報を共有し、本人と共に支える関係作りを実践している。毎月1回、日々の生活の様子を「壱番館だより」として文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、入居者の馴染みの方の面会が可能であることを伝え、家族を通して馴染みの方に面会していただくよう勧めている。その際、個人情報の保護には配慮をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を配慮して食事席などを決めたり、時には席替えを行うなどしている。レクリエーション等では入居者同士がコミュニケーションを上手くとれるように職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時には、今後も相談に応じる旨を必ず伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で入居者の希望、要望を把握している。具体的な事柄は直接本人の希望を伺うこともある。意思表示が困難な方には生活の様子を注意深く観察し、本人の意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調の変化を見逃さないように観察している。有する能力を把握し、維持できるようにケアプランに記載し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事摂取量などの記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの変化に応じて同法人内の他の専門職とも連携を取り対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人内での行事に参加するほか、買い物、外食、外部医療機関の受診等で地域に出ることで、地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的に受診の支援をしている。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また、同法人内の診療所とは医療連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を把握している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供書を病院に提出し、家族の同意を得て、医師からの病状説明等には同席するようにしている。退院前には病院関係者に相談し、退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、必要に応じて話し合いを行っている。同法人の介護老人保健施設では終末期支援も行っており、家族と話し合いの上、退居後に介護老人保健施設を利用した例がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を申し送っている。グループホーム独自のマニュアルも作成し、勉強会も開催している。職員は年1回、消防署の指導による救急救命講習に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防署の指導のもと、緊急時の通報、初期消火、避難誘導の訓練を行っている。この防災訓練には地域の方にも参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで申し送りを行っているため、入居者に個人情報がかえらないような配慮をしている。更衣、入浴、排泄などにも、ドアを閉めたり、スクリーンを使用するなど十分気を配っている。同法人内の接遇委員会に職員を配置し、接遇チェックも定期的に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい、季節に合った服装の支援を心がけている。希望があれば入居者と一緒に衣類を買いに行くこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、洗い物など、食べ物の話をしながら、出来る事は入居者がおこない、食事への関心を高めている。包丁などの刃物の使用についても、入居者の能力を把握した上で積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスを配慮している。食事摂取状況は食事チェック表を使用し、個別に把握している。水分量は水分摂取量チェック表に記録している。食事、水分量には注意をはらい、不足気味の方には個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には、排泄パターンの把握に努めて声かけや介助を行っている。日中、夜間とも排泄はトイレを使用していただく事を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らないように、朝食前に牛乳を提供したり、水分量を増やすなどの工夫をしている。個別で食物繊維の補助食品の提供もおこなっている。毎日の体操や散歩などの運動も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて毎日午後から入浴を可能にしている。入浴したい時間帯や曜日は希望を伺って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中も臥床時間を設けている。その日の状態によって夜間の睡眠に差しさわりの出ない程度に昼寝を勧めるなど、体調の観察と併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルに綴じ、職員が閲覧できるようにになっている。処方に変更があった場合、職員全員に申し送るとともに、体調などに変化がないか観察し、医師、看護師につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用し、役割を持って生活出来るよう支援している。また外出や趣味活動の支援を行い、楽しみのある生活を実践している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望には随時対応している。外食会では、行き先を入居者に選択していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預り、本人が衣類、日用品の購入を希望した時に使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙を出す際には、切手や葉書等の購入や投函の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に十分配慮し、落ち着いて生活できる環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり、日光浴をするスペースとなっている。またソファや窓辺でそれぞれ自由に過ごすこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や日用品など馴染みの物、使い慣れた物を持ち込んでいただいている。昔の趣味の用具を部屋に置いて大事にされている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い、安全に配慮し、自立した生活が送れるように常に考えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラリア壱番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。